

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 30 年 11 月

○ 概要

- (1) 平成 30 年 11 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,220 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）▲1.6%）で、処方箋 1 枚当たり調剤医療費は 8,801 円（伸び率▲3.6%）であった。（→P.1~2）
調剤医療費の内訳は、技術料が 1,628 億円（伸び率+2.3%）、薬剤料が 4,581 億円（伸び率▲3.0%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 870 億円（伸び率+0.9%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋 1 枚当たり薬剤料 5,251 円（伸び率▲5.5%）を、処方箋 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.86 種類（伸び率▲0.5%）、23.6 日（伸び率+2.0%）、78 円（伸び率▲6.9%）であった。（→P.8,9）
- (3) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,711 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）▲137 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 688 億円（伸び幅▲111 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 42 腫瘍用薬の+38 億円（総額 308 億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,711 億円 (▲137 億円)	21 循環器官用薬 (688 億円)	11 中枢神経系用薬 (669 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (579 億円)
0 歳以上 5 歳未満	30.4 億円 (▲5.6 億円)	44 アレルギー用薬 (13.1 億円)	61 抗生物質製剤 (6.1 億円)	22 呼吸器官用薬 (5.4 億円)
5 歳以上 15 歳未満	82.4 億円 (▲3.6 億円)	44 アレルギー用薬 (29.8 億円)	11 中枢神経系用薬 (21.1 億円)	61 抗生物質製剤 (9.5 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,289 億円 (▲37 億円)	11 中枢神経系用薬 (288 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (215 億円)	21 循環器官用薬 (206 億円)
65 歳以上 75 歳未満	890 億円 (▲51 億円)	21 循環器官用薬 (197 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (169 億円)	11 中枢神経系用薬 (111 億円)
75 歳以上	1,420 億円 (▲40 億円)	21 循環器官用薬 (282 億円)	11 中枢神経系用薬 (249 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (190 億円)

- (4) 処方箋 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 8,801 円（伸び率▲3.6%）で、最も高かったのは北海道（10,508 円（伸び率▲4.5%））、最も低かったのは佐賀県（7,519 円（伸び率▲2.1%））であった。
また、伸び率が最も高かったのは愛媛県（伸び率▲0.8%）、最も低かったのは山梨県（伸び率▲5.2%）であった。（→P.31~32）

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標）注)	76.7 %	+6.5 %
薬剤料ベース	19.0 %	+0.7 %
後発品調剤率	73.9 %	+3.6 %
(参考) 数量ベース（旧指標）	53.1 %	+4.8 %

注)【後発医薬品の数量】/〔(後発医薬品のある先発医薬品の数量)+(後発医薬品の数量)〕で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+0.9%	+8.4% (5 歳以上 10 歳未満)	▲6.7% (65 歳以上 70 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.0%	22.6% (0 歳以上 5 歳未満)	12.9% (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	76.7%	79.6% (60 歳以上 65 歳未満)	69.5% (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬）薬効分類別】（→P.47~53）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	768 億円 (▲1 億円)	21 循環器官用薬 (247 億円)	23 消化器官用薬 (108 億円)	11 中枢神経系用薬 (85 億円)
0 歳以上 5 歳未満	8.7 億円 (+0.6 億円)	44 アレルギー用薬 (3.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.9 億円)	61 抗生物質製剤 (1.5 億円)
5 歳以上 15 歳未満	17.0 億円 (+1.2 億円)	44 アレルギー用薬 (8.8 億円)	61 抗生物質製剤 (3.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.8 億円)
15 歳以上 65 歳未満	258 億円 (+1 億円)	21 循環器官用薬 (70 億円)	11 中枢神経系用薬 (39 億円)	23 消化器官用薬 (31 億円)
65 歳以上 75 歳未満	189 億円 (▲5 億円)	21 循環器官用薬 (78 億円)	23 消化器官用薬 (25 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (20 億円)
75 歳以上	294 億円 (+1 億円)	21 循環器官用薬 (99 億円)	23 消化器官用薬 (51 億円)	11 中枢神経系用薬 (33 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.66~71）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,231 円	1,630 円（北海道）	1,044 円（福岡県）
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲1.2%	+3.0%（徳島県）	▲5.8%（福井県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	76.7 %	85.9%（沖縄県）	69.5%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.0 %	22.8%（鹿児島県）	16.3%（徳島県）
後発医薬品調剤率	73.9 %	81.3%（沖縄県）	68.6%（東京県）
(参考) 旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	53.1 %	62.4%（沖縄県）	48.5%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成 30 年 11 月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約 99%である。